

は し が き

中国は1989年に11億人の人口に達した。この規模の大きさとともに、中国政府が70年代末以来強力に押し進めてきた人口抑制政策の帰趨をめぐって、近年、中国人口への関心が高まってきている。中国人口統計に関する情報は長い間公表されていなかったが、1982年人口センサス実施以来急速に統計の整備が進み、全国人口のみならず地区別の人口統計も公表されるようになった。

本書は、アジア経済研究所が、統計調査部の早瀬保子を主査として平成元年度に発足させた「中国人口の変動要因分析」研究会の成果である。本書は、中国人口統計のうち地区別の静態人口統計を時系列に編集したもので、国際的な比較可能性をも考慮しており、中国人口の動向を知る上で有用な資料であると考えている。

本書の編集は早瀬保子と川俣青子が担当したが、編集の過程において、翻訳家の内海潤子氏ならびにアジア太平洋統計研修所講師の M.Mosleh Uddin 博士には中文英訳や英文監修にご協力いただいた。ここに厚く謝意を表する。

この研究にご参加いただくとともにさまざまなご助言、ご協力をいただいた厚生省人口問題研究所の河野稠果所長はじめ研究会委員の方々に深く感謝するとともに、今後の一層のご協力をお願いしたい。

1990年3月

アジア経済研究所

統計調査部長 森 健